

研究所だより I

■平成三〇年度出版助成事業 書籍紹介

高畑 裕樹 著

『農業における 派遣労働力利用の成立条件』

北海道地域農業研究所学術叢書⑱

筑波書房発行・定価（本体一八〇〇円＋税）



北海道は、もともと地域労働市場の層が薄いうえに全国でも特に激しい人口流出と少子高齢化にさらされていることから、労働力問題が地域の基幹産業である農業の存続にもかかわる問題となっている。北海道の農業は、かつての「出面組」がほぼ消滅している現在、外国人労働力やコントラクター

など、それぞれ課題を抱えつつも多様な労働力調達が模索されている。そうした中で無視できない広がりを見せているのが派遣労働である。これまで非農業部門でしか注目されてこなかった派遣労働を、農業の視点からとらえ、綿密な実態調査をふまえて現状を明らかにしたのが本書の特色である。

ここで特に問題とされるのは、多様な作目を扱う農家経営の労働力需要は短期的、スポット的なものにならざるをえないが、このことと労働力のバッファ機能や作業習熟の必要性とをどのように折り合いをつけていくのかという点にある。本書ではこれを実態に即して説明し、派遣労働への具体的提言をおこなうとともに、地域・農協との連携の必要を提起している。

もとより本書ですべてが説明されたわけではないが、農業労働はもちろん地域労働市場を理解するうえでも、本書から得られる示唆は貴重である。

筆者に出版助成の審査を依頼された北海道地域農業研究所の飯沢理一郎所長がこの四月に急逝されたが、故人の意思も地域と農業を担う人々の実態を究明するこのような研究の促進にあつたと思われる。

北海学園大学 名誉教授 奥田 仁